

学校との連携を目指して

～ＥＳＤの視点を取り入れた森林環境教育の取組～

近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター
自然再生指導官 池田 克司

1 課題を取り上げた背景

平成26年11月に名古屋市で開催された持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）世界会議で林野庁主催の「森林環境教育の充実とＥＳＤの推進」と題したセミナーが開催され、「森林・林業に関わる活動には、持続可能な開発の概念が備わっている。森林環境教育をとおして学ぶことで、持続可能な社会を作るための人材育成に繋がる。」との趣旨で、森林環境教育によるＥＳＤの推進が提起されました。

また、平成28年5月改正の森林・林業基本計画においても、森林環境教育等の充実の項で、「ＥＳＤの取組が進められていることを踏まえ、教育関係者との連携や探求的な学習での森林の活用等、体験・学習する機会の提供などを推進する」とされ、ＥＳＤを活かすことが提起されました。

2 経過

これまで森林での活動は、森林教室や自然観察・木工クラフトなど体験で終わるものも多く、森林が持つ持続可能性や生物多様性などについての学びが不十分であり、ＥＳＤの視点・考え方を取り入れることで、活動がより拡がりのある探求的なものになるのでは、と感じました。

一方、学校・教員側は森林環境教育の必要性は理解しても、実際に取り入れていくにはハードルが高く、活動団体側も、連携を望んでいるけれどもなかなか受け入れてもらえないなどの悩みを持ち、どのようにすれば学校と活動団体がうまく連携できるのかが課題となっていました。

そうした課題を踏まえて、ＥＳＤの視点を理解してもらうことと活動団体と教育機関との連携を考える場として、森林環境教育（森林ＥＳＤ）活

動報告・意見交換会を企画し、平成27年度と28年度に実施しました。

3 取組結果

第1回を平成28年1月25日に「森林を活用した森林環境教育を実践している団体等の活動報告」で、第2回を平成29年1月28日に「学校と地域団体等が連携して、授業の中で取り組む森林環境教育」をテーマに開催し、1回目は14団体が発表、42団体84名が参加、2回目は6事例を13団体が発表、48団体87名が参加をしました。

発表では、小・中学校の教諭から授業時間の確保の難しさや経費の問題も出されましたが、生徒の積極的な学ぶ姿勢や取りまとめでも教科をまたいで学習効果が生まれていること、活動団体によるサポートの必要性などが報告されました。また、活動団体も経費や人員確保に苦労しながらも、活動の意義や意識が高まったこと、様々な組織・団体と連携することでの活動の拡がりに繋がったこと、などの成果が報告されました。

参加者からは、「ＥＳＤについて理解が深まった」「学校との連携について意識するようになった」「普段接する機会のない団体との交流ができた」などの評価を得るなど、多様な活動団体・教育関係者が集まり、活動事例から取組の共有や参加者同士の多くの交流が生まれました。

また、ＥＳＤの視点で整理・検証する「活動分析シート」についても、「活動の方向や足りない部分を認識できた」などの評価を得ました。

4 今後の取組

第3回を平成30年1月27日に計画しており、新たに幼児期の活動も含めて教育機関と活動団体が連携して取り組む事例報告を募集しています。

このような取組をとおして、森林環境教育の実践と森林ＥＳＤの普及・情報発信・交流の拠点として、箕面森林ふれあい推進センターを認識してもらえるようにさらに取組を進めていきます。



平成28年度の取組